

桜陽高校だより

「恩返し」と「恩送り」

校長 白鳥 真次



(校訓)

賢く 強く 豊かに

(学校教育目標)

- (1) 研学に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

今年も卒業生を送り出す日がやってきました。この晴れの日を迎えられた卒業生の皆さん、卒業おめでとうございませう。本校の教育活動に暖かいご支援ご協力を賜り、心からお祝いと感謝を申し上げます。

昨年八月十五日、行方不明だった二歳の男の子が、八歳の子供によって発見されました。尾崎さんが言ったように、受け入れ、育て、感謝の気持ちを込めて、お返しをします。

この言葉、「懸情流水」は、仏教の教えで、石は水に流れて、水は石に流れて、お互いに流れていく。それと同じように、私たちはお互いに流れていく。それと同じように、私たちはお互いに流れていく。

「恩返し」とは、直接相手に返すこと。それは、相手のために何かをしたことに対する感謝の気持ちです。それは、相手のために何かをしたことに対する感謝の気持ちです。

「恩送り」とは、間接的に相手に感謝の気持ちを伝えることです。それは、相手のために何かをしたことに対する感謝の気持ちです。それは、相手のために何かをしたことに対する感謝の気持ちです。

「恩送り」とは、間接的に相手に感謝の気持ちを伝えることです。それは、相手のために何かをしたことに対する感謝の気持ちです。それは、相手のために何かをしたことに対する感謝の気持ちです。

第98号

平成31年

3月1日発行

目次

- p1 学校長
- p2 3年次
- p3 2年次
- p4~5

退職者から
p6~8
部活動報告

さらに、「感謝」の気持ちを持っています。幸福を感じていただければ幸いです。

本校の大きな特色である「ボランティア活動」は、多くの方から感謝されています。ボランティア活動は、多くの方から感謝されています。ボランティア活動は、多くの方から感謝されています。

卒業生の皆さん、本校の校訓「賢く、強く、豊かに」を胸に、社会で活躍してください。卒業生の皆さん、本校の校訓「賢く、強く、豊かに」を胸に、社会で活躍してください。



『見学旅行報告』

二年次主任 篠原 肇

昨年の十月三十一日水曜から十一月三日土曜日に三泊四日の日程で高校生活最大の行事である見学旅行が実施されました。見学旅行のねらいは、

(1) 史跡等を見学することにより、日本の文化・歴史および平和についての認識を深めること。

(2) 広く社会認識を深めることによって、現代社会への適応力を涵養すること。

(3) 集団行動を通じ相互理解を深めるとともに、責任感や連帯意識を高めること。

やり方によつては、ただの買い物旅行にもなりかねない行事です。この大きな行事を迎えるに当

たつて、国語の授業では平和についての学習が行われ、2年次ホールには図書局が平和資料館を作

つてくれたり、東海大学の教授が来校され、建築物の見方を講義してくれ

るなど多くの時間を準備として費やしてきました。

勿論、自主研修についても、電車の時間、見学地、食事の場所など細かく緻密に計画を立てました。

この努力が、買い物旅行ではなく、「学びの旅行」としてよりよい時間を過ごすことに繋がった

と思います。原爆ドームや仏閣を見て感動する。それは、当たり前前のことです。それよりも、場所が変わっても、時代が変わっても説かれる話は変わらない事に感動を覚えしました。1日目に平和講話をし

てくださった『高田直久さん』は、原爆の悲惨な状況を伝えつつも、

「我々日本人は優しさと思いやりのできる民族である。そこに誇りを持ちなさい」というように、

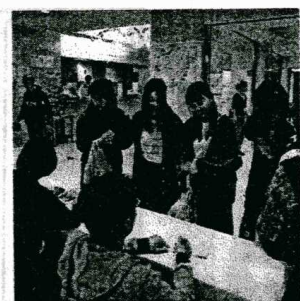
優しさと思いやりについて論じられました。

2日目の薬師寺でのお坊さん『加藤大覺さん』の面白い説法も、

「物事が好転しないとき、その悪い要因は自分の中にある。『謙虚な心』と『感謝の心』を忘れてはいけない」という話でした。このような素晴らしい話を聞くことができて良かったと思います。

自主研修では、君たちの責任ある行動に感動しました。大阪で地震が起きて、JRのダイヤが乱れた時、速やかに状況を教員に伝え、全員無事に走って帰ってきました。

肩で息をしながら。この時も、不測の事態が起きたときどのように行動したらいいかを的確



に判断し、その状況でもきちんと規則を守ろうと息を切らして走って来た姿に感動しました。

さらに、みんなで協力して迅速に行動すること、自由時間を捻出したり、時間的に難しいと思われた研修も成功に導くなど、全員で協力して見学旅行を作り上げてきました。

この集団行動こそ、最も意味のある旅行を作り上げた礎となったと確信しています。まさに、上記の(3)を達成しました。

『準備の大切さ』『優しさ』『思いやり』『謙虚な心』『感謝の心』『時間遵守』...etc.

これらは、今後君たちが生きていく上で、必ず必

要となってくる言葉です。学校の中で言われてもそんなに気づかないことでも、見学旅行に行つてまた実感できたのではないのでしょうか。

勿論、失敗して怒られることもありました。その失敗もなぜそうなったのかをよく考え、同じミスを繰り返さないよう努めることができたなら、怒られた甲斐があります。

怒つてあげられるのも、あと1年となつてしまいましたが。卒業したらもう怒つてあげられません。

共有できる時間を大切に、残りの学校生活を通して、各々の夢を実現すると共に、社会に出ても逞しく生きていけるよう成長してくれることを切に願っています。



『次の時代に行く卒業生に期待する』

三年次主任 富樫 勝

正月早々にNHK「シリーズ人体特別版」が再放送された。

これはタモリさんと山中教授が進行を務めた「人体 神秘の巨大ネットワーク」を再構成した作品だ。臓器を構成する細胞が、互いにメッセージ物質を放出して、体液を介した情報交換を行い、連携してはたらいっていることが、最新の研究成果と共に紹介された。

このシリーズは、1989年（平成元年）に人体を小宇宙になぞらえてタモリさんが、1993年に脳と心をテーマに養老孟司さんと樹木希林さんが、1999年にDNAをテーマに

マに古屋和雄アナウンサーが進行を務めた30年に及ぶ長寿シリーズだ。今回の第4シリーズでは、高校の生物基礎にも取り上げられているDNAとタンパク質の関係が、より詳細に説明されていた。鮮明な実画像やCGアニメーション、研究者のインタビューを交えた構成により、興味深く見ることができた。30年前に私たちが知らなかったことが解明されて高校教科書に取り上げられ、より詳しい内容がテレビで放送される時代になった。おかげでがんや成人病に対する診断や予防、治療に関する一般人の

医学知識がかなり高くなった。振り返れば生命科学分野に限らず、この30年の社会の変化は大きい。ポケベル、携帯電話、インターネット、スマートフォンなど、情報通信技術は「3革命」「第4次産業革命」の形容がふさわしい。高速進化を続けている。また、人種や民族、ジェンダー、障害者、ハンセン病、LGBTなどについて偏見や差別が排除され、人権や平等に対する意識が高くなっている。あまり意識することがないまま、私たちは日常の多忙に追われながら、このような社会の流れに適応して生活してきた。

だが、これらの恩恵の一方で、別の問題に直面するようになった。生命科学の発達により、様々な病気を克服して長寿社会になることは、より多くの人々が認知症やがんを患うことにつながった。この発達により、近いうちに多くの職業が人から奪に引き継がれ、削減する予測が出された。ネット決済、GPSや監視カメラなどにより、個人情報丸裸にされる可能性が指摘された。人権や平等に関する意識は高まり、国内法整備が進む中で、自国主義が台頭し、社会の分断や格差の拡大が進んだ。ヘイトスピーチやネット上の誹謗中傷、平気で他人や他国を見下したような発言をする人たちが面白おかしく取り上げたTV番組など、言論や表現の自由を盾にした悪意が垂れ流された。

このような平成最後の年に卒業し、次の時代に行く卒業生は、表と裏、光と陰が混在する社会にやがて自分の地位を確保する。そのことは生態系内で多様な生物が生存競争の中で個々の特性を生かして生態的地位（ニッチ）を確保していることに重なる。競争の激しさが強調されがちな生態系では、ヒトと腸内細菌のように、多くの生物が共生関係にあり、助け合って生きていくことが次々に明らかにされている。40億年の歴史を持つ、生態系に学ぶことは多い。卒業生のみならず、しなやかさをもって「賢く強く豊かに」、そして助け合い、明るく健やかに未来に進んでいくことを期待しています。